

研究課題名	急性期脳梗塞の神経学的予後及び側副血行路の発達に関連する因子の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院 神経内科
研究責任者	所属 神経内科 氏名 一條 真彦
研究期間	(西暦) 2016年 4月 ～ 2018年 3月
研究の意義・目的	脳梗塞は我が国の要介護となる原因疾患の上位を占める国民病であり、高齢化に伴って今後増えていくことが予想される。脳梗塞のなかでも心原性脳塞栓症は特に増加傾向にあり、その予後は他の脳梗塞と比較して重篤になる傾向がある。近年、脳梗塞急性期に発達する側副血行路が脳梗塞の良好転帰に関連することが多数報告されているが、側副血行路の発達程度は個人差が大きい。側副血行路の発達に関連する因子を同定する事は脳梗塞急性期治療の適応拡大や良好転帰の予測に繋がる可能性がある。本研究ではこの因子を同定し、虚血性脳卒中の神経学的予後良好の予測因子を解明することを目的とする。
研究の方法 (対象期間含む)	2012年4月から2016年1月に当院脳卒中センターに来院した虚血性脳卒中患者を対象に、その検査データ、カルテに基づく神経所見、治療経過、画像所見を後ろ向きに解析する。約1500例を対象とし、カルテに基づく身体所見・検査データを後ろ向きに観察する。側副血行路の発達をMRIで評価し、その発達に関連する臨床情報(既往歴や内服歴、検査所見など)との関連を検討する。神経学的予後に関しては神経機能(NIH Stroke Scale Score)、3ヶ月後の機能予後(modified Rankin Scale)、梗塞体積を主要評価項目とし、検査所見、画像所見などとの関連を検討する。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法(匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む)	①本研究内容を学会及び論文で発表し、脳梗塞治療の発展に寄与する目的で情報を利用する。検査データ、画像所見など全てのデータの住所、氏名、生年月日などの個人を特定できる情報は削除し、本研究遂行者により連結可能匿名化を施し、新たに符号をつけて厳重に保管する。
②利用し、又は提供する 試料・情報の項目	②対象患者の検査データ、カルテ内容、画像を利用する。
③利用する者の範囲	③研究期間に情報を利用する者は、当院神経内科 一條真彦に限定する。
④試料・情報の管理 について責任を有する 者の氏名又は名称	④情報は、研究責任者 当院神経内科 一條真彦の基で管理を行う。
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 神経内科 氏名 一條 真彦 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525